



EL SALVADOR

学校名：松戸市立第四中学校

氏名：沼田 麻人

[担当教科：社会科]

- 実践教科等：社会科
- 時間数：3時間
- 対象生徒：中学校3年生
- 対象人数：37人×4クラス

1 単元名

なぜ、日本は発展途上国に約1兆円も援助するのか(援助の目的を知る)

2 単元の目標 (ESDの能力・態度)

- ・エルサルバドルの写真を見て、日本と異なる点を見つける。発見した相違点から、エルサルバドルが発展途上国の1つであることを理解する。(批判的に考える力)
- ・写真の分析(フォトランゲージ)を通して、班別学習を進める。(他者と協力する態度、コミュニケーションを行う力)
- ・エルサルバドルで働く日本人の活動を知る。(つながりを尊重する態度)
- ・ODA(政府開発援助)は各国の相互依存関係を背景にして考える(多面的、総合的に考える力)

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・発展途上国(エルサルバドル)の様子を知る【多様性】
- ・JICAの支援の実態を知る【連携性】
- ・日本が途上国に多額の援助をしている目的を知る【相互性】
- ・ODA(政府開発援助)を「相互依存」の観点から考える【連携性、公平性】

4 単元の指導について

(1)教材観

本校では「言語活用」ということを重視している。そのため、今回の授業では「班での話し合い」と「自らの考えを書く」ことを中心に授業を展開した。

(2)児童生徒観

「エルサルバドル」や「中米」について、これまでの授業では一切触れていない。そのため生徒の知識はゼロに等しい。しかし、「発展途上国」についてのイメージは持っている。そこで、今回はエルサルバドルを発展途上国の一つの具体例として取り上げた。

(3)指導観

教師が体験したことや実際の映像を使うことができる点が、今回の授業の特徴である。そのため、それらを生かせるように授業を作った。また、生徒が授業で得た知識をもとにして自らの意見を主張できるような授業展開にした。

授業は私が受け持つ4クラスで行った。どのクラスも、生徒が比較的自由に発言できる雰囲気がある。しかし、話し合いが苦手な生徒が各班に1～2名程度いたり、班全体で活発な活動ができなかった班もあった。

5 評価規準

観点	エルサルバドルと現地で活躍する日本人への関心・意欲・態度。	一枚の写真を分析し、自らの言葉でまとめる思考力。途上国へ援助する目的を理解する思考力。	エルサルバドルと日本を比較する技能。	エルサルバドルの概要、青年海外協力隊、援助の目的についての知識。
----	-------------------------------	---	--------------------	----------------------------------

評価規準	・現地の日本人の活動に対して肯定的な感想が書けたか。	・「日本と違うところ」を5つ以上見つけられたか。 ・分析結果をもとにまとめられているか。 ・援助の目的と「相互依存」の関係をまとめられているか。	・日本と異なる点を探し出せているか。 ・他国の現状や伝統を偏見なく理解することができたか。	・エルサルバドルの概要を理解できたか。 ・青年海外協力隊の活動を理解できたか。 ・援助の目的を正しく理解できたか。
評価方法	・映像資料を視聴する様子。 ・回収したワークシートのコメント ・授業中の発言	・グループ活動での発言 ・回収したワークシートのコメント	・回収したワークシートのコメント ・授業中の発言	・回収したワークシートのコメント ・授業中の発言

6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7 授業事例の紹介」に記載

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	エルサルバドル研修の報告 (学年集会)	エルサルバドルという小国の実態を理解する。 自分にとっての「幸福」とは何かを考える。	パワーポイントを使いながら現地の様子や研修目的を説明する。(現地で撮影した写真の提示。) エルサルバドルの位置を確認させる。 現地の小学5, 6年生(幸福度98%)と松戸四中(幸福度は87%)のアンケート結果を伝える。先進国と発展途上国の幸福度の違いを導入として、自分にとって幸福とは何かを考えさせる。
2	エルサルバドルの写真进行分析する	エルサルバドルの路上の写真などを通して、発展途上国についてのイメージをふくらませる。	6人一班で、エルサルバドルの路上の写真を見て、日本と異なる点を探す。その後、「エルサルバドルは日本と比べて、〇〇である」とまとめる。 エルサルバドルの基本情報についての説明を聞き、感想を書く。
3	なぜ、日本は途上国に援助をするのか	青年海外協力隊の活動を知る。 ODA(政府開発援助)の意味を理解する。	現地で撮影した青年海外協力隊の活動を見て、感想を書く。 約1兆円もの援助の目的は何かを考える。

7 授業事例の紹介

小単元名【エルサルバドルの写真进行分析する】

(1) 指導案(1時間目)

(ア)実施日時 11月14日(金)第2限

(イ)実施会場 図書室(大型テレビがあるため)

(ウ)本時の目標

- ・班での話し合いに積極的に参加する。
- ・エルサルバドルが日本と比べて経済的に貧しいことを、話し合いを通じて自ら発見する。

(エ)指導のポイント

エルサルバドルの路上等の風景写真を見て「自由に」意見を述べるのは、生徒にとって難しいと考えた。そこで、「日本と違うところを書こう」、「不思議に思ったこと、疑問に思ったことを書こう」という具体的な指示を出した。そして、最後に「エルサルバドルは日本と比べて、〇〇である」という課題文を出した。生徒は自由に意見を述べるのであるが、この3つの課題によって「発展途上国」の特徴を自ら発見することができた。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入・5分	ワークシート配布 エル・サルバドルの位置を探させる。	世界白地図に、エルサルバドルの位置に赤ペンで色を塗る。		・位置がわからない生徒には地図を見ることを促す。	
展開・15分	写真を配布 班での話し合い	6人一班で写真を分析する ①日本と違うところを自由に発言する。それをワークシートに記入する。 ②疑問に思ったことを自由に発言する。それをワークシートに記入する。	グループ活動	・自由に発言できる雰囲気を作る。 ・話し合いが停滞している班には、ヒントを出す。 ・生徒からの疑問には、教師もその答えと一緒に予想する。疑問が出たこと自体を褒める。	・協力して話し合いに参加しているか。 ・鋭い視点、ユニークな着眼点で写真を分析できているか。 ・他の班員の意見を尊重しているか。
5分	写真分析のまとめ	エルサルバドルは日本と比べてどのような国かを班でまとめる。	グループ活動	・分析した事実を基に自分たちの言葉でまとめさせる。	・写真の分析を踏まえて回答を導き出しているか。
10分	エル・サルバドルの基本情報を説明する	パワーポイントの資料を見ながら、基本情報の説明を聞く。説明内容はワークシートに記入し、そのデータに関しての自分の感想を書く。	一斉	・ワークシートには日本のデータも掲載した。日本と比較し、感想を自由に書かせる。	興味関心を持って説明を聞いているか。 ・日本と比較して感想を書いているか。
5分	発表原稿を書く。	ワークシートにそって、本時の活動を発表できるように班でまとめる。	グループ活動	・班での話し合いに消極的な生徒に声をかけながら机間巡視。	・自分たちの班の活動を過不足なくまとめているか。
まとめ10分	班ごとに発表(代表者1名)	発表時間は1分間。班の代表者が前に出てきて発表する。	発表	・発表する時に、その班が分析した写真をテレビに映す。	

小単元名【なぜ、日本は途上国に援助をするのか】

指導案(2時間目)

(ア) 実施日時 11月17日(月)第1限

(イ) 実施会場 図書室(大型テレビがあるため)

(ウ) 本時の目標

- ・発展途上国で活躍する日本人の活動内容とその志を知る。
- ・「なぜ、日本が発展途上国に多額の援助をするのか」を考える。

(エ) 指導のポイント

本時は二部構成である。前半は青年海外協力隊の活動を紹介し、活動内容や志の高さを確認させる。後半は、そこに多額の税金が使われていることを伝え、「なぜ、途上国に多額の援助をするのか」という問題につなげていく。最初に生徒の関心が高い「お金の問題」に疑問を持たせる。その疑問を導入にして、本時のテーマである「日本が援助する目的」について理解が深まるようにした。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
-------	------	------	------	---------	-------------------

導入・ 5分	前時の復習 「発展途上国」という語句の確認	前時の「エルサルバドルは日本と比べて〇〇である」の回答を確認する。生徒の回答のような国を「発展途上国」ということを確認する。	一斉	・生徒たちの分析結果をもとに「発展途上国」に対するイメージを持たせるようにする。	・自分達の分析結果と「発展途上国」という概念を結びつけて考えられているか。
展開 12分	青年海外協力隊の活動紹介(説明文、映像資料)	ワークシートに書かれた青年海外協力隊の活動についての紹介文を読む。 映像資料を見る。	映像視聴	・まずは文字からイメージを膨らませて、映像資料を見る。活動内容の紹介は、映像資料の補足の意味もある。	・興味関心を持って視聴しているか。
5分	感想	映像を視聴した感想を書く。	個別	・視聴した映像資料をもとに、自分の言葉で自由に記述させる。	・自分の感じた事をどのように、どれくらい書いたか。
6分	「なぜ、途上国に援助するのか」を考えさせる。	パワーポイントの資料を見ながら、教師の説明を聞く。	一斉	・海外での活動に対しての肯定的な感想を紹介した後に、援助額が約1兆円もあることを伝える。	・内容理解に努めながら説明を聞いていくか。
5分	その答えを予想させる。	ワークシートのヒントを参考にして、答えを予想する。	個別	・ヒントをもとに考えることを促す。	・課題内容を理解し、真剣に考えているか。
7分	援助する目的を紹介する。	パワーポイントの資料を見ながら、教師の説明を聞く。	一斉	・「相互依存」の関係があることを理解できるように説明する。	・援助が日本と途上国にとってメリットがあることを理解しているか。
3分	ワークシートに沿って、授業内容をまとめさせる。	ワークシートの裏面にパワーポイントをもとにした問題が用意されている。その問題を解きながら、説明内容を復習する。	個別	・説明された内容をもとに問題を解くことで、知識の定着を図る。	
まとめ 7分	授業の感想	授業の感想を書き、提出する。	個別	・自分の言葉で感想を書かせる。授業で習った正解を書くのではなく、自分が思ったことや意見を書かせる。	・「相互依存」に関わるものが書けているか。

(2) 授業の振り返り

【1時間目】写真の分析(フォトランゲージ)は生徒も楽しそうに活動していた。一枚の写真を細かく見ると、様々な発見をすることができ、興味や疑問点が生まれる。多様な意見を級友の口から聞くことができたり、自分の思いつきや意見が班員に受け入れられた時に生徒は喜びを感じるようであった。しかし、活発な話し合いが展開されない班もあった。そのような班には教師が積極的に関わるようにした。フォトランゲージは、社会科の様々な場面で活用することができると思う。

「エルサルバドルは日本と比べて〇〇である」という課題を、生徒たちは次のようにまとめた。「ゴミが多い」、「ビルが全然ない」、「貧しい」、「治安が悪い」等。これらのまとめは生徒から出た言葉であるが、それが「発展途上国」のイメージとも重なる。2時間目の授業では発展途上国で活躍する日本人を取り扱う。その前提となる知識を生徒自ら導き出すことができた。

「エルサルバドルの基本情報」は教師主導で手短かに説明した。日本のデータもワークシートに掲載しておいたので、生徒は日本とエルサルバドルを容易に比べることができた。

【2時間目】青年海外協力隊の活動の映像を見せる前に、文章で補足説明をした。これは生徒が理解を深めるのに役立った。映像でしか伝わらない臨場感もあるが、映像の「背景」も同時に捉えさせることができた。途上国でボランティア活動に従事する日本人がいるということが、生徒には驚きだったようだ。そういうことを想像したこともなかった生徒に日本人の活躍伝えることができてよかった。

生徒達が肯定的な感想を持った青年海外協力隊には多額の税金が使われているという事実は、生徒の興味関心を引き付けることができた。また、援助の目的を教師が説明する前に、ヒントを参考に自

ら考える作業は重要であった。生徒の予想は完璧なものではなかったが、的外れな予想も少なかった。反省点としては、そのような素晴らしい予想を発表する場が作れなかったことである。

(3) 使用教材

- ・授業で使用したワークシートは次ページに縮小して掲載した。
- ・以下の写真は、小单元名【エルサルバドルの写真进行分析する】で使用したものの例である。



(4) 参考資料等

『エルサルバドルを知るための55章』細野昭雄・田中高編、明石書店、2010年

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

生徒の未知の国への興味関心は高かった。また、途上国でボランティア活動をする日本人に対する肯定的な感想が多かった。「なぜ、途上国に多額の援助をするのか」という質問に対して、人道的な理由しか思いつかなかった生徒たちが、この授業を通して「相互依存」の関係について理解を深めることができた。生徒の感想には以下のようなものがあった。

- ・途上国の人たちを援助に行ってる人たちがカッコよくて、でも1兆円という大金も使われているっていうのが衝撃的だった。
- ・発展途上国を援助するためだけに多額の税金を使うなら、国のために税金を使え、と思ったけれど、援助しているのはたくさんの意味があってそれが日本のためになることがわかった。
- ・互いに助け合い生きていく。これは「協力」のお手本であり、また基本でもある。今日の授業でその基本を見直すことができた。よく親に「人に頼ってばっかいないで自分がやりなさい」と言われるが、自分が頼られる存在になればいいだけ。そうすると協力関係が生まれる。
- ・映像見て、日本は改めて豊かだと思った。
- ・少し視点を変えれば、もっといろいろな途上国援助への意義を見つけられそうだなと思いました。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

Plan(授業案)-「なぜ、途上国に多額の援助をするのか」というテーマを考えさせる。そのための準備として、エルサルバドルの基本情報、青年海外協力隊の活動を理解させる。

Do(授業)-上記指導案の通り授業を行った。

Check(検証)-回収したワークシートを見ると、記述欄の文章量や内容には非常に個人差があった。枠いっぱい感想や意見を書けている生徒もいれば、1行程度しか書けていない生徒もいた。しかし、空欄という生徒はいなかった。書きたい意志はあったのに、どう書けばわからなかった生徒が3割程度いた印象である。そのような生徒に対して具体的な書き方を助言することが大切だと思った。

Action(改善)-次のクラスでは以下のような助言を行った。写真分析ではどのような点に着目するのか。感想は「正解」ではなく、「思ったこと」を書くこと。援助の目的を予想するときは、「ヒント」や教科書を参考にとすること。

10 教師海外研修に参加して

この研修を通して貴重な体験ができた。その中でも特に印象に残ったのは次の2つである。

1つ目は、途上国支援の現場を見ることができた点である。実際に自分が現地に行って「感じたこと」をもとに授業を展開することができた。現地で撮った写真や映像を授業の資料とすることもできた。さらに、写真や映像資料については、その「背景」まで生徒に伝える事ができた。

2つ目は、異校種の先生方と出会い、研修中に一緒に活動し刺激を受けたことである。先生方の話を聞きながら、さまざまな着眼点を知ることができた。また、自分の意見や疑問を投げかけると必ず答えが返ってきた。活動を通じて自分の思考が深まっていくのを感じた。日頃味わうことができない種類の刺激を多く受けることができた。

小単元名【なぜ、日本は途上国に援助をするのか】のワークシート

年組番氏名: _____

教 p158

【前回の授業】エルサルバドルは日本と比べてどんな国である。
・経済がひどく開発が進んでいない国
・ゴミが多い国
・ビルが全然ない国
・土地が余っていて、治安が悪い国
・暑い国
・校舎が壊れている国
・稲国という。

◎ エルサルバドルのように貧しい国を「発展国」という。

【エルサルバドルで活躍する日本人】

(1) 石田さんは、エルサルバドルでどんな活動をしていると思うか。

(2) クリルという氏は、マングローブ林で取れる。しかし、ぬかるんだ土を数に追われながら歩き回り、機織にかみ合ったマングローブの根元を手探りで探すなど、大変な重労働である。にもかかわらず、女性や子供が働き手となることも多かった。子供は、貝殻拾いの仕事のため学校に行けないケースもあった。石田さんは、貝の養殖方法を教える活動をしている。貧しい漁民に効率よく貝を生産する方法を伝えている。効率よく貝が取れば、漁民は無駄な重労働から解放される。子供は学校に行く時間が【できる】で【できない】！

(3) 日本で小学校教師だった久保さんは、エルサルバドルの小学校で算数を教えている。エルサルバドルにも算数の教師がいるが、専門的な指導方法を学んでいない。現地の先生たちも「よりよい授業をしよう」と強く思っているが、その「技術」を知らないという感じだった。では、子供たちはどうか。「日本の子供とエルサルバドルの子供の良いところは何ですか？」という質問への久保さんの答えに注目してほしい。

(4) リハビリセンターで働く西田さん。エルサルバドルのマットが壊れたため、赤ちゃんの寝る場所を考えた。新しいマットが来るのに数か月かかった。日本の「当たり前」は通用しない。

(5) 加藤さんは農場でエルサルバドルに適した農作物の研究開発をしている。せっかく作ったハウスが突風で壊れてしまった。試行錯誤の連続だと言っていた。

感想

【なぜ、途上国に援助するのか】

途上国に援助する理由を、私は次のように予想しました。

キーワードは「相互依存」。『お互いに頼る』という意味。
ヒントー・日本の「食料自給率」や「石油・石炭」ってどういう状態だった？
・大気汚染や温室効果ガスって日本だけの問題？
・途上国には、感染症、治安の悪化、難民、南米などの問題がある。それらは日本には無関係？

小単元名【エルサルバドルの写真を分析する】のワークシート

年組番氏名: _____

教 p158

エルサルバドルは四国と同じくらい面積。左の地図にエルサルバドルの位置を赤ペンで書き入れよう。

今日は各組で話し合っ、最後に発表します！

【写真を分析しよう！】

写真をよく見て！細かいところまでよく見て！班で話し合っ、日本と違うところを書こう。
箇条書きでまとめる。

➤ 不思議なこと、疑問に思ったことを書こう。そして、その答えを予想してみよう！

➤ 写真を分析してわかったこと。

エルサルバドルは日本と比べて、

である。

【エルサルバドルの基本情報】

	公用語	通貨	識字率	1人当たりのGDP	殺人発生率	総載
日本	日本語	円	99%	37,539 ^{ドル}	日本を「1」とする。	1945年
エルサルバドル			%	^{ドル}		年
一言感想	エルサルバドルは、言葉とお金が外国のもの！					

写真に写っている人はどんな人？何をしています？何を好き？想像してみよう！(時間的余裕のある班はやりましょう)